

『県大知の最前線～ワインの海底熟成メカニズムと変人の生態学～』

今回は、静岡県立大学に協力いただき、第160回の講演会・交流会を開催いたします。多数の方のご来場をお待ちしております。是非この機会に大学関係者・講演者にご交流いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。

2025年12月23日 火

講演会

16:00～17:30

名刺交換会（交流会）

17:45～18:30

会場

講演会 静岡市清水産業・情報プラザ3階（清水区相生町6-17）
名刺交換会 同上



本会には、宝くじ
収益金の一部が
使用されています

講演1

『オールシズオカで迫る！ 海底熟成ワインの神秘』

静岡県立大学 食品栄養科学部 食品生命科学科 助教 寺田 祐子 氏

講演2

『静岡の「のら変人」がみえますか？』

静岡県立大学 グローバル地域センター特任教授・副学長 酒井 敏 氏

参加料

無料

定員

会場聴講：40名

【申込方法】 下記申込書に記入してFax、e-mail で申し込み下さい。
尚、右記 QR コードからも申し込みできます。

【事務局】 静岡商工会議所 産業振興課（担当：稲葉、堀川）
TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 e-mail:info@siip.jp

※大学側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ名刺交換会までご出席下さい。

申込先は
こちら



参加申込書

第160回「産学官交流」講演会・交流会 参加申込書（静岡県立大学）
2025年12月23日（火）開催

Fax 054-352-7817

事業所名		Tel	
所在地		Fax	
参加者名	(役職名：)	(役職名：)	
e-mail			

※お手数ですがe-mailアドレスの記入をお願い致します。

※ご記入いただきました情報は、商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用することがありますので、ご了承ください

講演 1

『オールシズオカで迫る！ 海底熟成ワインの神秘』

静岡県立大学 食品栄養科学部 食品生命科学科 助教 寺田 祐子 氏

海底熟成ワインとは、海底に一定期間沈めたワインのことです。2010年にヨーロッパのバルト海で、沈没船から170年前のワイン168本が発見されました（PNAS 2015）。引き揚げられたワインはおいしく飲めることが判明し、11本が総額2300万円で落札されました（Fox News 2012 June 8）。

このニュースは世界的に大きな注目を集め、以降、世界各地で海底熟成ワインが作られるようになりました。

しかし、海底熟成によるワインのフレーバー変化について、国内外のグループが精力的に研究してきたものの、科学的なエビデンスは示されておらず、熟成のメカニズムも不明です。海底熟成ワインを通じた地域産業の活性化が世界各地で試みられており、その推進に向けて、エビデンスが求められています。

私たちは、県内企業の協力のもと、5年前から海底熟成ワインの研究に着手し、海底熟成によるフレーバーの変化と、熟成のメカニズムを世界で初めて明らかにしました。

これまでに、県内のダイビングショップ、ソムリエ、バーデンドー、酒造メーカーとの連携により、海底熟成の神秘に迫ることができました。研究成果の産業応用を目指しており、パートナーとなってくださる企業さんを探しております。

【略歴】

2015年3月に静岡県立大学大学院にて、博士号（食品栄養科学）を取得。在学中に、日本学術振興会特別研究員DC1、米国ミシガン州立大学 産婦人・生殖生物学科への留学を経験。帰国後、久留米大学 分子生命科学研究科 助教を経て、2018年4月より現職。専門は食品のおいしさと機能性。海底熟成ワインの研究に5年前から着手し、海底熟成によるフレーバー変化とそのメカニズムを初めて明らかにした。



講演 2

『静岡の「のら変人」がみえますか？』

静岡県立大学 グローバル地域センター特任教授・副学長 酒井 敏 氏

静岡の人は保守的でおっとりしていると、よく言われます。そのような側面は確かにあるのですが、旧清水市に生まれ、学生時代から京都で暮らしていた私は、ちょっと違った印象を持ちます。静岡には「変人」が多いのです。ここでいう「変人」とは、悪い意味ではなくて、本能的衝動（必ずしも合理的でない）にすなおに従って行動する人という意味です。しかも、その行動があまりに自然で、本人も「変」だと思っていないし、周囲もあまり気にしていない。京都のように、ひねくれたところもないので、私は「のら変人」と呼んでいます。

イノベーションとは、それまで、意味がない／無駄だと思っていたもののうち、新しい意味を見出すことです。既存の価値観のなかで一生懸命考えても、それは生まれません。余白やガラクタが必要です。さらに、合理性を超えた衝動的な思考や行動、つまり変人が必要なのです。

こういう文化の重要性は古くは文化人類学者のレヴィ＝ストロースが「野生の思考」の中で指摘していますし、最近では経済学者のサラスバシーが成功した起業家のマインドセットとして、エフェクチュエーションという概念を提唱しています。にもかかわらず、最近では、あまりに合理性や効率を追求しすぎて、このような余白や余裕が社会の中から失われています。その失われつつある貴重な文化が静岡には自然な形で、かなり残っている。これを静岡が使わない手はないのではないのでしょうか？

【略歴】

1981年4月より京大教養部助手、1986年5月京大理学博士取得。京都大学教養部助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を経て2023年より現職。専門は地球流体力学で、大気や海洋の力学的構造の研究のほか、フラクタル構造を応用した日除けを開発するなど、多様な研究を展開している。2017年、京都大学の未来に危機感を抱き「京大变人講座」を開講。著書に『京大的アホがなぜ必要かーカオスな世界の生存戦略』などがある。

